

- 1 … 新年度に向けて・新理事紹介
- 2 … SFAミッションの進捗状況について
- 3 … メディア座談会 第2弾
- 6 … 市町FA理事長会議・TM in 幸手市
- 7 … U-15リーグの説明
- 8 … サッカーフォーラム・技術委員会
- 9 … 大会記録
- 14 … 19年度決算書
- 15 … 20年度予算書・各委員会委員長
- 16 … インフォメーション・編集後記



●発行/発行人:会長・相川宗一 編集人:高橋 明 ●発行所/(財)埼玉県サッカー協会 住所:〒330-0074さいたま市浦和区北浦和1-21-18雁ヶ音ビル204号室
Tel048-834-2002・Fax048-834-2004 http://www.saitamasfa.com/(年間購読料 1500円)

平成20年度第1回理事会開催

6月24日、ときわ会館において今年度第1回目の理事会が行われた。主な議題は事業報告と決算報告、そして新評議員の選出。報告事項としては、役員を選任、各委員会委員長の任命があった。

なお、この一週間前の17日には評議員会が開催され、事業報告と決算報告を行い、そこで新理事の承認が行われた(決算書は14ページに掲載。また20年度予算書と各委員会委員長は15ページに掲載)。

人事は以下の通り。円滑な協会運営に向けて、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

平成20年、21年 (財)埼玉県サッカー協会役員一覧

会長 相川 宗一
副会長・専務理事 横山 謙三
副会長 星野 隆之

理事 秋山 和雄
岡田 泉
柏 悦郎 (新任)
河本 弘
小嶋 一晃 (新任)
小林 武
柴崎 康之
高橋 明
茅根 勝
長瀬 欣一
藤口 光紀
松沢喜久夫 (新任)
丸山 晃
吉田英三郎
渡邊 誠吾
監事 栗原 靖治
原田 明
船崎 久壽

評議員

高橋 勝行 東部地域連絡協議会・越谷市協会理事長
宮崎 幹夫 西部地域連絡協議会・東松山市協会理事長
駒崎 昌利 南部地域連絡協議会・戸田市協会理事 (新任)
忍田 行廣 北部地域連絡協議会・熊谷市協会理事長 (新任)
天沼 達也 第1種・社会人連盟副理事長
松原 裕 第1種・大学連盟理事
吉原 尊男 第1種・自治体連盟
松村 道彦 第2種委員長
森田 洋正 第2種・高体連サッカー専門部委員長 (新任)
谷地田昌史 第3種・中体連サッカー専門部委員長 (新任)
鈴木 勇 第3種・クラブユースサッカー連盟U-15理事長 (新任)
花井 正彦 第4種・少年連盟理事長
佐藤 桂良 第4種・クラブユースサッカー連盟U-12理事長 (新任)



高橋 昭夫 フットサル連盟理事長 (新任)
遠山 茂 シニアサッカー連盟理事長
早乙女秀雄 財務委員会委員
坂庭 泉 技術委員会副委員長・ユースダイレクター (新任)
橋上 賢一 広報委員会委員 (新任)
二瓶 省三 施設委員会委員長
斉藤 由雄 審判委員会委員 (新任)
塩野 潔 医事委員会副委員長
西川 誠太 科学委員会委員 (新任)
井口 正夫 規律・フェアプレー委員会委員
大倉 浩 学識経験
土川 正巳 学識経験
都倉 正敬 学識経験
筑井 信夫 学識経験
林 和雄 学識経験

長沼健氏が逝去

6月2日、JFA最高顧問であり、埼玉スタジアム2002の場長である長沼健氏が逝去されました。享年77歳でした。ここに謹んでご冥福をお祈りするとともに、長きに渡る日本サッカー界へのご尽力に感謝を申し上げます。

写真提供:(財)埼玉県公園緑地協会



犬飼基昭氏が第11代JFA会長に就任

7月12日、JFAにおいて平成20年度第1回評議員会が開催され、元SFA副会長で、Jリーグ専務理事の犬飼基昭氏のJFA会長就任が承認された。

浦和高校時代には日本ユース代表に選出され、慶應大学を卒業後は三菱重工に入社し、日本リーグでも活躍。2002年からは浦和レッズの社長に就任した。埼玉県出身者のJFA会長は初。



2008年のSFAミッションについて

～横山専務理事に聞く～

—すでに、様々なところで話もされていますし、ホームページでも紹介していますが、今年度の取り組みのポイントはどこにあるのでしょうか。

横山 まずは組織の拡充と委員会制度の充実が挙げられます。組織としては、各市町FAとの連携を強めていきたいと思っています。協力体制を整えるためにもまずは、JFAからSFAからの情報を流していきたいのです。しかしながら、県全体を見るとFAのないところもありますし、連絡が取れないところもあります。少しずつこちらの意図を理解してもらいながら、4地域の代表者の皆さんにまとめてもらいたいと思っています。

次に委員会ですが、各種別、各専門委員会をどうしていくのか。機能していないところもありますし、仕事の足りない組織もあります。そういうのを提案して、整えていきたいと思っています。

—イメージとしては、風通しをさらによくしようということでしょうか。

横山 うまく情報が伝達されていなかったり、SFAを経由せずにJFAから直接地域に、チームに連絡が行っていることが多いのです。やはり、SFAから情報を発信し、共有できたらと思っています。

—次に4種リーグが2年目を迎えました(47ブロックで359チーム参加)。

横山 そこで「5ヵ年計画」をスタートさせました。まず理解していただきたいことは、最終目標は1種、シニア、女子全体、そしてフットサルとすべてに効果があるということです。サッ

カーを続けていくためにもゴールデンエイジをどう過ごすかが大事なのです。この年代は才能が一番ですが、才能がなくても指導によって、伸びてくる子供も出てくるのです。この年代の才能、個性を大事に育てることが大事で、そのためには判断をさせること。すべてミッションの“人づくり”に繋がっていくのです。

—そして3種に続いていくのですね。

横山 サッカーの専門的な能力を身につけるのは3種年代です。個人戦術、グループ戦術、そしてチーム戦術。さらにコンディショニングなどもあるでしょう。技術も精度が求められます。

しかし、この年代には7割も指導者がいないのです。そこで外部指導者派遣事業を行いますし、こちらから出前する形でD級の講習会を開催することにしました。1年で40人程度、5年かけて200人の指導者を養成できれば、特に中体連の指導現場は変わると思うのです。また、これから各方面と話をしていきますが、大学生を中学で指導できるようにインターンシップ制度も検討しているところです。将来教員になりたいという学生に、中学校という現場を知ってもらうことは大事なことだと思っています。シニアの力も若い力も必要なのです。今年は3種、それも中体連の指導現場に力を入れていきます。

私は3年目、高橋事務局長は2年目となり、仕事のペースは加速していると思います。各市町FA、各委員会、そして事務局で連携しながら、よりいい埼玉のサッカー環境を整えていきたいと思っています。合わせて、皆さんのお力添えもよろしくお願い申し上げます。

財団法人埼玉県サッカー協会のこれから(2007年度～)

埼玉県サッカー協会(SFA)は、SFAミッションを掲げ、様々な活動に取り組んでいます

Wonderful SAITAMA SFA Mission [Click](#)

◆ SFAミッションの実現に向けて、2008年度から2つの課題に取り組めます

①組織の拡充 → 各市町村の協会との連携を図る
a. 情報共有化
b. 協力体制の強化

②委員会制度の充実 → 1種・2種・3種・4種・女子・シニア・フットサル
各カテゴリーにおける普及・育成・強化活動の支援

◆ SFAミッションに基づいて、2008年度から普及・育成・強化の基本指針と目標

<基本指針> ・スポーツ精神の啓発と自立できる人(自分自身に責任を持ち、社会の一員として各方面で積極的かつ主体的に生き、力を発揮できる人)を育てる
・4種年代で子どもの感性を育み、自立心と判断力を養う指導を行ない、専門的な技量を身につける3種へとつなげる

<目標> ・2種年代で全国でトップを目指します
・大学、社会人、Jクラブに地元出身者を輩出します
・日本代表チームで活躍する選手を育成します

普及・育成 4種 (登録18チーム) → 感性を育てる
・自立心と判断力を養う

育成 3種 (登録431チーム) → おい素質を更に伸ばす
・再チャレンジの機会を提供する

2種 (登録185チーム) (高校181、クラブ4)

大学・社会人・Jクラブ

<カテゴリー別の目標と具体的な施策>

対象	目標	具体的な施策
4種	・リーグ戦の発展 ・指導者プログラムの充実	①2007年度に引き続き、4種リーグ(子どもの公式の遊び場)の開催 ②指導者養成コースの整備 ③指導者リフレッシュコースの整備
3種	・4種の受け皿を拡充 ・指導者育成プログラム整備	①中学校の教員を対象としたライセンス制度の整備 年間目標60名(2008年度から5ヵ年計画) ②外部指導者派遣制度の導入 外部指導者候補 現在4名 ③3種リーグ設立に向けてのアプローチ
2種	・専門的な指導レベルアップ	①若手指導者(30歳以下)の育成 年間目標10名(2008年度から5ヵ年計画) ②2種リーグ戦導入に向けてのアプローチ

— 基本的な考え方 —

> 4種の育成指導が最も重要

- ・年間を通じて、子どもの公式の遊び場の提供
- ・前年度から始まったリーグ戦を継続、発展を目指す
- ・参加チームを増やすよう努力する
- ・感性を重要視した指導体制をつくる

↓

指導者養成コース、指導者リフレッシュコースの整備

> 4種から3種へとつなげる指導体制の整備が急務

- ・3種リーグ戦を開催に向けて、まず、指導者の競技経験を高める

↓

指導者不足の解消 → 外部指導者派遣制度の導入
指導者のレベルアップ → 指導者ライセンス制度の導入



変わっていく埼玉サッカーへの期待と激励 ～メディア座談会～

昨年開催した「メディア座談会」の第2弾。在県の中央メディアの皆さんにお集まりいただき、それぞれの埼玉サッカーへの思い、期待を語っていただいた。

出席者：毎日新聞社さいたま局・浅野翔太郎様、
NHKさいたま放送局放送副部長・有福数美様、
読売新聞さいたま支局・込山駿様、
共同通信社さいたま支局次長・高橋秀樹様、
東京新聞さいたま支局長・仁賀奈雅行様、
朝日新聞社さいたま総局・前田大輔様

(あいうえお順)

SFAより横山謙三副会長・専務理事、高橋明広報委員長

横山 まずはご多忙のところ、お集まりいただきありがとうございます。今回は埼玉サッカー、さらには日本サッカーのためにどうすればいいのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。よろしくお願いします。

さて、日本のサッカーをどのようにご覧になっていますか。日本代表を観て、子供たちの中の最もいい素材が集まっているのでしょうか。野球のほうがまだまだいいですね。今重要なのは、素材を取り出すということ。しかし、素材を引き出すということを未だやったことがありません。いろいろな方法があると思いますが、ご意見を伺いたいと思っています。そしてここからメッセージを送り出したいと思っています。忌憚のないご意見をいただき、情報を共有していきたいと思っています。

高橋明 この7月で財団法人化しまして、丸3年となります。現在、様々な施策を展開しているところでございます。今回、お集まりいただいた皆さんから、何かアイデアがございましたら頂戴したいと思っています。よろしくお願いします。

それでは自己紹介がてら、皆様から一言ずついただきたいと思っています。まず前田さんからお願いできますか。

■ 3種の指導者を増やして、質を上げたい。

前田 入社して5年になります。前任地の新潟ではアルビレックスを担当しており、昨年の5月に埼玉に赴任してまいりました。取材対象はレッズが多いです。その中でサポーターの方

ちと話をするのですが、新潟とは歴史が違いますね。「あのときどうだった」という話は新潟ではないです。またいろいろな方たちがレッズで繋がっていて、熱さが違いますね。その熱気を伝えていければと思っています。

仁賀奈 こんにちは。横山さんの現役時代を観たことがあるのは私だけでしょうか。68年は小6でした。入社してからは社会部畑で、何回かトヨタカップの取材に行ったことがあります。

ぜひ野球並みの素材、女子アナと結婚できる素材を送り出していきたいと思っています。それにはメディアでしょうか。サッカーはテレビで観ていてもわかりづらいところがありますが、テレ玉さんには頑張ってくださいと思っています。アウェイの中継をしてもらいたいんですけどね。

レッズが世界的なチームになれるかは、この10年が勝負でしょう。各国の代表クラスが日本の市場に流れるかどうか、レッズにかかっていると思います。

ミッションを拝見しました。芝の100面構想はどうなっているのでしょうか。また指導者は足りないのでしょうか。

横山 指導者は足りないわけではないのです。芝のグラウンドは足りないんですけどね(笑)。例えばU-12だと、子供たちの個性を活かした指導をしないとダメです。また指導に行き過ぎがあったり、何も言わずに指導しないという人もまだいるのです。まずは、子供の発想を大事にしてもらいたい。そのためには教えてあげなければいけないものもあるのです。そして次の段階は中学生ですが、4種、U-12では素材のいい悪いはわからないのです。3種で見極めるのです。しかし、その3種には指導者が7割いないというのが現状です。これは全国的な傾向なのですが、一番重要な時期に指導者がいないという現状はピ



仁賀奈雅行氏
東京新聞さいたま支局長

ンチです。現在中体連と協力してもらい、ライセンス取得の特別コースを作ってもらったり、外部指導者派遣を始めるところです。これができると随分変わるのではないかと考えているところです。4種の個性を活かし、3種の指導者を増やし、かつ質を上げていかないと進歩はしません。

仁賀奈 野球だと小学生でも勝つための指導をしていますよね。サッカーでは、勝ち負けにこだわらない指導者を増やしてほしいものです。ですから、リーグ戦はいいですね。

浅野 入社して4年目です。レッスを中心に取材しています。私も高校までプレーしていました。埼玉はレッスだけでなくレッス以前の歴史もあり、今年は埼玉サッカー100年ということもあり取材をしています。Jリーグの100年構想を考えると、県内のクラブがレッスとアルディージャだけでいいのかと考えています。地域に自主的な機運が高まり、これからさらにクラブができてきてもいいのではと思っています。県内を見ても熊谷、川越、所沢などがあり、児玉には独特のサッカー文化があります。さいたま市に集中することなく、埼玉のサッカー文化が形成されることを願っています。

込山 96年に入社し、山形に5年、週刊(読売)に1年、運動部に5年して、先日運動部からレンタル移籍してきました。県内のスポーツ担当として楽しくやっています。サッカーの担当もしており、レッスも見ています。タクシーの運転手さんが地元のチームの順位を言えるのは、新潟と磐田とここ埼玉だけです(笑)。ですからレッスのことを書くと反応がすごく、県内版の大きなコンテンツになっています。

ですが、レッスの1トップで孤立気味ではないでしょうか。アルディージャにそれだけの存在感がありません。埼玉のサッカーにおいて、アルディージャがレッスと違う輝きを放てるのか。そこにSFAはどう絡んでいくのか。レッスランドとどうリンクしていくのか……そういうことも期待して見えています。

野球に比べるとサッカーはわかりにくいです。1本のパスにどんな意志があるのか。オランダのワールドユースを取材した折、クラブハウスでは地元の親父さんたちが評論していたのを見ました。そこまでは時間がかかるでしょうが、SFAがその先頭に立っていかなければならないのではと思って取材しています。



高橋秀樹氏
共同通信社さいたま支局次長

高橋 共同通信ですので、新聞そのものの紙面媒体ではなく、配信しております。スポーツに関しては国内外問わず、またサッカーでは国体、天皇杯で協力させていただいています。私は社会部でどちらかといえば事件担当が長いですね。

J発足時、日韓のワールドカップのときはよく取材しました。今日では「ここまで来たか」という思いです。J以前は惨憺たる有様で、「Jは成功するのか」

とっていたほどです。

私は野球をしていまして、今は少年団のチームの代表もしています。サッカーの人とも話をしますが、指導者不足の話が出ます。しかし、ボランティアということから指導できる大人が集まらないと聞いています。また大変なのはグラウンドだと。特に人口は南部に集まっており、土地もない。行政に訴えても「高齢者対策」「福祉」のほうを重要視しています。やはり環境でしょう。子供たちが南米のように「サッカーができる」街づくりをしないと、いい選手は出てこないと思いますね。

有福 さいたま放送局でイベント担当をしております。毎年、彩の国カップではお世話になっています。今、二度目の埼玉なのですが、初の赴任で彩の国カップの決勝を見て、ボールの音が違うな、サッカーって面白いなと思いました。

私は若い人の育成——スカウト機能ではありませんが、Jクラブに頼らないで選手を見つける専門家がいてもいいじゃないかと思っています。野球ではそういうのがあります。選手を見つけ出すシステム、見つけ出す人材の育成を考えていただければと思います。

SFAとしても地域との関わりは難しいと思います。自分の地域にある試合を見に行く、ボランティアをする、見る人とする人がいて、「サッカー面白いね」と思える場があれば、サッカー人口は増えると思います。芝のピッチには簡単には入れないと思いますが、気軽に開放してもらおう日があってもいいのではないのでしょうか。

育成の面では、レッスがJ2のとき、お願いして数回サッカー教室を開いていただきました。指導されると見る見るうちに子供たちがうまくなるのがわかりました。そういう指導を今以上にお願いしたいところです。

■今年も3種の年。5ヶ年計画を立案。

横山 ミッションはまだ未整備です。人づくりを基盤にサッカーで一番大切な判断力は自立していないと持てません。サッカーはもちろん、サッカー以外の道に行っても豊かな人生を送ってもらいたいのです。そしていい素材を。運動というのは、音楽と共通で10歳までが勝負です。そこまでのところでどうするかという認識がなければ、人は育たないのです。そこで年間を通じた遊び場として作ったのがリーグ戦です。

この年代に遊び場を作ってどう展開させるか。先ほどスカウティングの話が出ましたが、子供は財産です。リーグ戦をやりながら、子供たちの環境をどうすればいいのか考えるのです。最近、食育の話を目にしますが、「そんなことを言っているところは強くない。他人のものも食べ」と言っています(笑)。あとはケガをしないためにはどうすればいいのか……。埼玉、日本のサッカーがよくなれば、リーグ戦なのです。

10年前、レッスにいたときに中学校の調査をしたことがあります。そのときも7割指導者がいませんでしたが、昨年SFAで行った調査でも同じ数字でした。変わっていません。少しも改善されていないのです。ここにお金をかけるとなると、今のメンバーが活動している予算を削らなければなりません。

収入は皆さんからの登録料のみですから、予算を削る話になると賛成は得られません。「考え方はわかるけど…」と言われる



有福数美氏
NHKさいたま放送局放送副部長

のです。それでも外部指導者派遣事業を始めました。人生経験のある指導者4人に協力していただき、中学校の指導現場に出てもらおうと思っています。お金に関しては、それぞれの中学校で外部指導者の受け入れはあるようですが、相談しながら決めようと思っています。昨年は4種リーグを始めました。今年は3種の年。5ヵ年計画を立てて、予算も当てました。いろいろな人に関わってもらい、レッズとアルディージャにも協力していただきながらです。これは日本のためであり、レッズやアルディージャのためでもあるのです(笑)。そうしないと代表は強くならないのです。

前田 昨年の4種リーグはさいたま市のチームが少なかったですね。他の地域の指導者が「うちがここ(埼玉)に立っていいのか」と言っていたほどです。埼玉と言えば、まずはさいたまではないのですか。参加チーム数が少ないことに違和感があります。今年は参加チームが昨年より減ったと聞きました。中学はさておき、高校は25年間も全国の優勝がありません。育成の基盤を高めるには、もっと+αが必要ではないですか。



前田大輔氏
朝日新聞社さいたま総局

横山 さいたま市が少ないというご指摘ですが、各チームで意志を決めていただいています。リーグ戦だと毎週毎週子供を連れて行くことが大変だけど、トーナメントは1回で終わるから楽だという話も聞きます。まだ環境が整備されていないのです。ですから、出たところが出ればいいんです。強制ではありませんからね。

それも「自立」です。自立できないとダメです。自分で判断してほしいのです。ですから徐々に増えていこうと思っています。実際、スタートさせるときは3割が参加してくれればいいと思っていました。それが7割。ありがたい話です。

今、埼玉サッカーの中心は西の方に動いています。なぜリーグ戦が個性を伸ばすのか。サッカー王国と呼ばれる浦和から本当にいい選手が出ているのか。チームは強いがいい選手は出ていない。チームを強くすることはエゴでできます。でもそれではいい選手は出てきません。考え方を変えなければいけませんし、そういう人たちが早く出てくることを願っています。

あとホームでお客さんと呼んでゲームをすることです。これを体験することは人を育てる中で重要なことです。ある地区の方から「リーグ戦、5月の頭で終わりました」とうれしそうに声をかけられました。これにはガックリしました(苦笑)。理解していただくことは難しいことかもしれませんが、時間をかけてやっていこうと思っています。しばらくこの形で続けて、リーグ戦のよさをわかてもらい、いろんなチャレンジをしていってほしいのです。

高橋 これは大人のためでもありますよね。重要なのは大人の考え方です。サッカーチームは託児所じゃないんです。やはり親が関わっていかないといけないと思います。指導者だけでなく、親をどう取り込んでいくのか真剣に考えていく時期ではないですか。リーグ戦が親も喜ぶ大会になれば、チーム数も増えていくのではないのでしょうか。

■ 2種リーグができれば、盛り上がる。

込山 親をキャッチすればいいですね。ハートフル(クラブ)を見ていると、指導が進むうちに親から歓声が上がりますね。そういう現場は魅力的ですよ。

浅野 少年団の親の不満要因は「自分の子供が試合に出られない」

です。試合に出ないと協力しなくなります。ですからリーグ戦は重要です。子供が試合に出れば応援に行くんです。あと指導者育成もですが、保護者育成も必要ではないですか。子供たちの環境を考えていかないと。

有福 プロを引退した人に4種の指導者になってもらったり、現役の頃から指導に出てもらえればと思います。

あと4種リーグでは、地域の人たちが声をかけあったりする雰囲気ホームグラウンドで作ってもらって人格的なところも変わるのではないのでしょうか。地域に関わるようになれば、子供たちの意識も芽生えるでしょう。天皇杯でも、地域を巻き込めるといいのですが。

仁賀奈 Jリーグの前座でもいいから、もっと実践の場がほしいですね。

横山 4種には言っています。選手全員が関わっていいんだと。何度もチャレンジできるように、もっともっと参加してもらって、U-12の試合だけでなく、U-10、8の試合をグラウンド半面でもいいので遊べる環境を作ってほしいのです。

有福 やはり学校ですよ。

込山 3種の大会はどうなっていますか。

横山 中体連とクラブがあり、共通のリーグ戦が始まりました。今年目標値としては、こちらから出向いて環境を整えることでしょうか。あと興味を持たれているのは2種です。2種リーグができれば盛り上がりが出てくるでしょう。ただ高体連の日程だと、本当の意味でのリーグ戦にはなりません。働きかけていきたいと思っています。



入山 駿氏
読売新聞さいたま支局

2種については、もっと専門的な知識を持ってもらうために、Jクラブの監督経験者を呼んで、ディスカッションをしてもらう講習会を作りました(若手指導者講習会)。

高橋 中学校のレベルの指導はかなり難しいでしょう。中2、3になると高校のサッカーも見ていますからね。理論も重要になってきます。

有福 あと1種も天皇杯がありますが、県代表にルミノソッソがなくても、大学がなくても、観客が来てくれません。場所をあちこち変えても解決にはならないようです。ですから「聖地」づくりもお願いします。試合に合わせて、小学生や中学生を集めて試合ができたり、クリニックができる場がほしいですね。

横山 勉強になりました。これである程度共通理解ができたでしょうか。これからがスタートです。埼玉のサッカーは変わっていくと思います。これからもよろしくお願いします。



08年度第1回市町協会理事長会議開催

6月14日、さいたま共済会館にて「市町協会理事長会議」を開催した。横山専務理事より今年度の取り組みと進捗状況の説明がされ、出席した各専門委員長からも現状説明があった。

横山専務理事からの要旨は2点。一つは組織で、市町協会とのパイプ強化、SFA内の委員会の再編が挙げられた。もう一つは4種リーグを受けての中体連へのテコ入れについて。質疑応答の中では、シニアの外部指導者派遣事業について「枠を増やして欲しい」と要望が出ると、横山専務理事からは「後日ご案内する、専門のリフレッシュ講習会を受講していただきたい。ご協力はありがたいのですが、ただ費用がね」と苦笑する場面もあった。

会議終了後には、懇親会も開催され、参加者同士の親交を深めた。



タウンミーティングin幸手市～紙上採録～

去る5月11日、アスカル幸手において、タウンミーティングを開催しました。約50名もの熱心な方々にお集まりいただいたことをこの紙面でも感謝申し上げます。

タウンミーティングでは、横山専務理事から「SFAミッション」の考え方、さらに今年度の取り組みの説明(2ページ参照)があった後、熱心な質疑応答がありました。

—中学校へ外部指導者4名を派遣すること。その予算は。

横山 SFAの収入は皆さんの登録費と国際大会での収益です。その中で予算組みしています。今は4人ですが、10人になったら別途考えます。ただ、まずは各自治体での外部指導者派遣制度を使っていたらいいのですが、お願いしにくいようです。

—4種の指導をしています。選手の能力にバラつきがあります。それは指導者がボランティアで行っているから。このままSFAの方針を展開し続けると「辞める」という指導者が出てきてもおかしくありません。今、「育てたい」という人と「元気で仲良くいいじゃないか」という人がいます。考慮していただきたい。

横山 リーグ戦のことだと思いますが、我々としては特別なことではなく、“遊び場”づくりとして始めました。指導者の方々、保護者の方々から毎週は負担だという声も聞きます。子供にとってよくて、できないということもあるでしょう。

しかし、リーグ戦が無理だけどトーナメント1回ならば行ける—それで親としての責任を果たしていると言えるでしょう。リーグ戦はトーナメントとぶつからないようにしています。

各地区にいい素質を持った子供たちはいるのです。彼らをどう育てたいのでしょうか。地元で育成していただくことが狙いなのです。「代表選手を作るためだろう」と思われがちですが、代表とは直結しないのです。なぜなら12歳以下で見極めることはできないからです。

—考えに関しては同感です。3種への外部指導者については、いいことだと思います。4種の指導者も積極的に入ってもらいたいと思います。日本代表にはスターがほしいですね。あと、

今は横山さんがいるから改革ができる。だからこそ、今のうちから後継者を育てていただきたい。

横山 代表にスターが出てきてくれたらいいですね。私はまだ素材が悪いと思っています。4種でいい指導を受けない限り、いい素材は生まれえないと思うのです。そして、その先の3種をどう過ごすのが大事なことだと思っています。

世界のトップスターの多くは貧民街から育ってきています。牛乳が欲しければ盗って逃げるんです。それが彼らの生活であり、環境なんです。それが日本だと「これがほしい」と思えば簡単に手に入れることができます。判断はいらないのです。であれば、日本ではいくつかの選択肢のある中で「どれを選ぶ?」という判断を求めなければいけません。そしてコミュニティ同士の戦いが必要なのです。その中でボトムアップをしなければ、スターは生まれてきません。また、我々の活動のほとんどは普及なんです。

私のは、皆さんの中から出てきていただければと思っています。

—4種では小学校の合併でグラウンドの確保が難しくなっています。ミッション1での学校への働きかけ、7の荒川河川敷の100面構想などありますが、ここから荒川の河川敷は遠いです。県全体に確保できるよう、検討していただきたい。

横山 例えは例えなんですよ(笑)。実状では、外部指導者に240万円捻出することも大変なんです。また、グラウンドを持つことは大変なことです。JFAは「芝がいい」と言っていますが、私は世界的に見たらそんないいグラウンドは多くないと思っています。環境はグラウンドではなく、広場があればいいのです。ドイツはベッケンバウアー以降、いい選手は出てきていません。それはストリートサッカーが無くなったからだと言われています。とにかくサッカーをやるのが重要なのです。

芝は大人のため、65歳以上の皆さんには無料でお貸ししたいというのが、私の理想で夢です。グラウンドに関しては、市町村と積極的に話をしていかなければいけません。

今年の4種リーグのパンフレットには、小野(伸二)くんや小林慶行選手、鈴木(啓太)くんがメッセージを送ってくれました。小野くんは言っています。「人は人前でやったほうがうまくなる」と。舞台俳優もそうです。4種リーグもそうなのです。

—久喜、栗橋がどういう現状か知っていますか。調査してほしい。問題点を理解した上で、ミッションを話していただきたい。

横山 それはこちらからお願いしたいこと。今まで組織がないんです。我々はどうやって現場の声を聞くことができるのか。今までは「中央が勝手にやりやがった」なんです。ですから、皆さんとのパイプがないとできないのです。東部の代表者とは話をしています。とにかく組織の拡充をしなければなりません。

—それぞれの階層で切れています。我々の声がSFAにつながっているのか。SFAで集約できているのか。代表と言われる方々は、個人的な感覚で会議に出ているようです。だから、今までこのような集まりもないのです。

横山 組織と委員会を充実させていきます。直接SFAに来ていただいてもいいですから、ぜひ話をしましょう。

スケジュールさえ合えば、市町村レベルにも伺い、SFAの考えを直接伝えさせていただきますので、ぜひご連絡ください。また、皆さんの声を直接お聞かせください。ご連絡は事務局までお気軽にどうぞ。



2008年、3種リーグがスタート ～昨年スタートした4種リーグに呼応して～

昨年度から4種リーグが始まった埼玉。すでに昨年の小学6年生は卒業し、今は中学1年として初めての夏休みを迎えるところだろう。さてこの4種の受け皿である3種は、このリーグ戦にどう対応しているのか。現状とこれからを、石川賢一・第3種委員会総務担当・県中体連副委員長(さいたま市南浦和中学校)に話を聞いた。

—昨年からU-14の8チームによるトップリーグが始まりました。

石川 まずそこまでの流れを説明させてください。07年にJFAから「リーグ戦を」という要望がありましたが、すでに06年に関東協会の3種委員会から「関東で3種リーグを始めます」という打診をされていました。この関東からの打診により、08年、09年には県のトップチームを関東リーグの入れ替え戦に出せるような体制を整える準備を始めたのです。

今まで埼玉の3種で、県の3種のトップチーム、要は中体連とクラブが一緒になってトップチームを決める大会はありませんでした。ですから、これを機会に作っていこうという話になったのです。

—であれば、U-15のリーグ戦ではなかったのですか。

石川 2年の猶予をもらいました。やはりいきなりできるものではないという考えからです。そこでまずU-14のトップリーグを始めて、リーグ戦を通じて一番いいチームを送りだそうということになったのです。

レッズとアルディージャは、その実績で最初から関東リーグで戦うことになりました。あとは05年と06年の高円宮杯の結果をポイント化して、8チームを選びました。結果的にクラブが7、中体連が1でした。その結果を受けて、今年からU-15トップリーグが立ち上がり、今年の1位が来年の関東リーグへ昇格することになっています。

—リーグ戦の解釈が、4種とは違いますね。

石川 多少違うと思います。3種はトップチームを決めるためにやっています。4種はサッカーに関わる子供たちみんながゲームをできる環境を作って、M-T-Mをしようとしています。環境作りという面では、3種もやっていかなければいけないと考えています。ですから、トップリーグの次、さらに底辺をどう整備するかが課題です。またトップリーグの下は中体連とクラブが別々にリーグ戦を行っていますから、今後これらをどうやって一緒にやっていくかも課題ですね。

—具体的には中体連とクラブでは、どのようにリーグ戦をやっていますか。

石川 クラブだとU-14と13でリーグ戦を行っています。中体連だと4地区で希望を募って形づくっています。全県下に広げるには、もう少し時間をかけていきたいと思っています。

■ トップ、セカンド、各地区をホーム&アウェイで

—もう少し、中体連での現状をお聞かせください。

石川 東西南はほぼ全チームに近い数でやっています。北部は調整中で、これは地域差があるのか、まだ厳しい状況です。

やっているところはカテゴリーを分けて行っています。例えば南部だとさいたま市と他の南部の二つに分かれていて、上位リーグを県体、新人戦に出たチームと各市の上位チームで構成されています。地区の中で実力に応じて層を分けているのです。

第一原則は、トップリーグとセカンドリーグと同様、ホーム&アウェイ。やりっぱなしではなくM-T-Mにしています。次にグラウンドがない、狭いという環境下ではそれでよしとしています。やはり「自分の学校のグラウンドでできる」ことが大切ですからね。南部だとホームチームが狭いグラウンドならば

8対8で行い、アウェイが広ければ11対11もOKとしました。

また部員数の数もバラバラで80～90名いる学校があれば、チームが組めない学校もあります。そういうチームが対戦するとせっかく一緒に練習してきても試合に出られる子供と出られない子供が出てきてしまいます。であればと思い、部員数が似たようなチームの組み合わせにしています。ですからAチーム同士の試合があれば、多いところは一年生中心のDチーム同士、Eチーム同士の対戦もあるということです。そこもDリーグであり、Eリーグです。「Eリーグで優勝した!」という喜びを味わえるようにしたいと考えているのです。これがSFAが狙うところだと思っていますし、各会議で趣旨を伝えているところです。ですから、3種はトップリーグと下部リーグは、違う意味のリーグ戦になっていますね。

—トップリーグと下部リーグの入れ替えはどうなっていますか。

石川 U-13のJFAプレミアカップの県大会を中体連とクラブ、それぞれベスト8、16チームで行っています。このトーナメントのベスト8が次の年のU-14トップリーグを構成するということにしました。そして、この県大会の残りの8チームをU-14セカンドリーグとして始めています。

セカンドリーグからトップリーグへ入れ替え戦を作って、さらに下部から上につながるようにしたいと考えているのです。

—下部リーグのチーム数はどうなっていますか。

石川 5～8チームですね。5チームだと8試合しかありませんから、すぐに終わってしまいます。郡市、地区ともリーグ戦が中心という考え方が浸透するにはまだ時間がかかります。

—日程確保に苦労されていませんか。

石川 長いスパンでやりたいのですが、なかなか他の大会や学校行事もあり、長いところで半年、短いところでは3ヵ月くらいで消化しているのが現状でしょうか。時期も課題ですが、今の形づくりの時期ですので、まだまだです。

まだ冠大会を獲ることが一番のようですが、どの地区もSFAの趣旨は理解してくれています。もう少し時間をください。あと、地域の中体連とクラブの連携ですが、これは市町FAに後押ししていただければと考えています。SFAからもお伝え下さい。

実際は大変です(苦笑)。長い間、中体連とクラブではモチベーションに差があったり、力量の差があったことは否めません。ただこのリーグ戦化によって、中体連のチームもクラブチームと試合ができる場が増え、試合をしながらいろいろなことを覚えるようになりました。昨年のトップリーグで与野東が中体連から唯一参加し最下位でしたが、顧問からは「1対1の粘り強さやスピード、サッカーへの考え方などいい収穫が得られた」と聞かせてもらっています。

移動、グラウンド確保、審判など各問題はありますが、やりながら一つ一つクリアしていこうと思っています。絶対にリーグ戦は効果があるのですから。そのためにも、トップリーグを始めとするリーグ戦の位置づけ、意識づけも課題です。

ホーム&アウェイに、各学校のグラウンドの取り組み。特にグラウンドの広さに応じて人数を変えているところなど、素晴らしいではないか。4種に続き、3種も着実に動き始めている。SFAとしては、今年を3種、とりわけ中体連への取り組みを強化しているだけに、し

っかりとサポートしていきたい。続くは2種。この流れを2種がどう受け止めるか注目していきたい。





「埼玉サッカー100年記念」イベント、キックオフ!

今年「埼玉サッカー100年」の年。SFAとしては、11月には記念パーティー開催と100年史(DVD2枚組)発刊を予定している。

その先駆けとして、6月21日に埼玉会館小ホールにおいてパネルディスカッション「埼玉サッカーの現状とこれから」～埼玉は本当に「サッカー王国」なのか～が開催された。

司会は大野勢太郎氏。サッカージャーナリストの河野正氏が「すでにサッカー王国ではない」と切り出すと、犬飼基昭・Jリーグ専務理事は「戦後の高校選手権優勝は、依然埼玉が1位。王国ですよ」と反論。ただ、ここ20年に関しては「指導者養成をサポート。SFAの怠慢」と指摘された。横山専務理事も指導者養成の怠慢には同意。また、具体的に登録者数などを挙げ、「王国の定義はわからないが、数字的に見れば、王国ではないだろうか」とした。「これからの5ヵ年計画(2P参照)の中で、もっといい素材が出てくるのではないかと」期待を込めた。

最後はレッズ、アルディージャの話題になったが、県教育委員でもある犬飼氏の「スポーツと教育を分けて考えなければならぬ」という話やSFAミッションで掲げる「人づくり」まで話が及び、充実した2時間となった。

【一部質問に対する返答】

Q: C級ライセンスを持っているが、B級ライセンスを取りたいと思う。どのようにしたら取得できるのか。なかなか取得が厳しいと聞かすが、門戸を広げてもらいたい。(要旨のみ)

A: まずB級ライセンス講習会はJFAが行っており、9地域での分散開催となったことで、JFAから与えられた埼玉の受講者の枠は、今年から14人に広がりました。これは東京と並んで最多となっています。現在、SFA技術委員会としては、3年前から下記の条件を付けて自己推薦枠を設けています。

条件

- ①C級コーチを取得してから3年以上経過しており、なおかつ指導しているチームがあること(トレセンだけでも可)。
- ②取得後、必ずトレセン活動または指導者養成等協会事業などに携われること。
- ③サッカー競技歴があること、またはそれに見合う技術力を有すること。
- ④年間に5泊6日×3回程度のB級ライセンス講習会受講が可能なる者。

※講習会に関わる費用は受益者負担となります。

方法

一次審査…書類審査

二次審査…指導実践・ヒヤリングを行い志望理由や取得後、協会や技術委員会の事業に積極的に協力出来るかの意思確認をする。

三次審査…指導実践を行い技術力・指導力が推薦に値するかどうかが判断する。

三次審査は従来からの種別推薦者を交えて行い、推薦の順位を決定します。ここまでの審査を行うのは、47FA公認チーフインストラクターです。

B級以上のライセンスは、個人で取得するものですが、SFAからの推薦ということもあり、様々なSFAの事業に協力していただくということが前提です。よろしくお願いします。

●埼玉サッカー100周年記念事業実行委員会が立ち上げ

SFAはさいたま市、埼玉大学、さいたま市サッカー協会、埼玉県立歴史と民俗の博物館、さいたま市サッカーのまち推進協議会と共に、埼玉サッカー100周年記念事業実行委員会を立ち上げました。緩やかな連携の中で、この埼玉サッカー100年の年を盛り上げていきます。

【今後の予定】

- ・展示「サッカーdeきずなー埼玉サッカー100周年ー」
埼玉大学 7月19日～8月29日
 - ・企画展「埼玉サッカー100年」
埼玉県立歴史と民俗の博物館 7月19日～8月31日
※7月27日(日)には横山専務理事の講演「Wonderful SAITAMA」があります。参加希望の方は048-645-8171で受付中。
 - ・特別展「100年前のさいたま」
さいたま市立浦和博物館 7月19日～8月31日
 - ・さいたまシティカップ 浦和レッズvsバイエルン・ミュンヘン
埼玉スタジアム2002 7月31日
 - ・埼玉サッカーカンファレンス
コムナーレ(浦和パルコ10F) 10月10日～13日
 - ・さいたまサッカーフェスティバル 駒場スタジアム
11月15日
 - ・さいたまサッカーフェスティバルNACK5スタジアム大宮
12月7日
- ※休館日などをご確認ください。

記念マーク



シンボルマーク

さいたま市の木である「ケヤキ」の葉がサッカーボールを包み込むことで、埼玉サッカー発祥の地に根づいたサッカー文化100年の歴史と伝統を象徴的に表現し、空に向けて伸びる葉の様は埼玉サッカーの更なる飛躍(発展)をイメージしています。



ロゴマーク

サッカー場のピッチ(芝)を象徴するグリーンを基調とし、未来に向かって無限の広がりや無限の可能性を秘めている「埼玉サッカー」の更なる発展を願い、100周年の「00」を「∞(無限)」で表現しています。

※美術家の、高須賀昌志埼玉大学准教授とその研究室グループ(学生/瀧原・相楽 ほか)による作品です。

技術委員会

●第2回指導者資質向上講習会を開催～命を助ける～

3月9日、川越市南文化会館にて茂呂浩光氏(財団法人東京救急協会・指導課長)を講師に「命の大切さ」について講演会を開催した。



命を守るためにはどうすればいいのかを、家庭の中、グラウンドにおいてなど具体的な事例を挙げながら、説明していただいた。いかに早期治療が大切かを知り、また死亡などは防げるということが理解できたのではないだろうか。

受講者は20人程度と少なく残念だっ

たが、この「命」に関しての講演会は県内各地で繰り返しやっていきたいものだ。冒頭の「大切な人が目の前で苦しんでいるときに、皆さんはどうしますか?私はなんとしても助けてあげたい」という茂呂氏の言葉が、未だに耳に残っている。

●外部指導者活躍中

今年度からの「5ヵ年計画」の一つでもある「外部指導者派遣事業」がスタートした。

すでに石田敏一氏(元県立高校教諭)が春日部市立豊野中、青木宏至氏(元古河電工)が春日部市立武里中、坂村岱氏(元日立)が越谷市立南中で指導を始めていただいている。あと遠山茂氏(元私立高校教諭)は、さいたま市と川口市周辺であれば可能とのこと。興味のある顧問の方は、ぜひ事務局までご連絡ください。次号にて、現場レポートの掲載を予定している。

●平成19年度関東U-16トレセンリーグ最終結果

平成19年4月29日～平成20年2月24日

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	群馬県トレセン	5	0	2	15	+6
2	東京都トレセン	4	2	1	14	+6
3	千葉県トレセン	3	2	2	11	+3
4	茨城県トレセン	3	1	3	10	+8
5	埼玉県トレセン	3	1	3	10	-2
6	神奈川県トレセン	2	2	3	8	+5
7	山梨県トレセン	2	2	3	8	-2
8	栃木県トレセン	1	0	6	3	-24

●平成20年度関東U-16トレセンリーグ

第1節 4月29日 茨城県 2-4 埼玉県

第2節 5月25日 群馬県 0-3 埼玉県

※次節は7月21日、栃木県総合公園サッカー場で開催

●第4回関東女子トレセンリーグ(U-15)最終結果

平成19年9月9日～平成20年3月9日

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	茨城県トレセン	6	1	0	19	+18
2	栃木県トレセン	5	2	0	17	+13
3	東京都トレセン	5	0	2	15	+13
4	山梨県トレセン	3	1	3	10	+3
5	埼玉県トレセン	3	1	3	10	+1
6	神奈川県トレセン	2	0	5	6	-16
7	千葉県トレセン	1	1	5	4	-2
8	群馬県トレセン	0	0	7	0	-30

●第5回関東女子トレセンリーグ(U-12)最終結果

平成19年10月13日～平成20年2月16日

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	千葉県トレセン	6	1	0	19	+20
2	埼玉県トレセン	6	0	1	18	+22
3	神奈川県トレセン	4	1	2	13	+11
4	東京都トレセン	4	1	2	13	+9
5	栃木県トレセン	3	1	3	10	+3
6	群馬県トレセン	1	1	5	4	-15
7	茨城県トレセン	1	1	5	4	-18
8	山梨県トレセン	0	0	7	0	-32

大会記録 ● 県内大会

1種・社会人

2008年度埼玉県社会人リーグ1部

7月13日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	バイオニア川越	9	0	0	27	+18
2	坂戸シティー	5	0	4	15	+8
3	浦和レッズアマ	5	0	3	15	+6
4	AVENTURA KAWAGUCHI	4	1	4	13	+1
5	FC西武台	4	0	4	12	+6
6	飯能セボジータス	4	0	4	12	±0
7	武南クラブ	2	0	7	6	-21
8	狭山アゼリア	0	1	7	1	-21

第38回全国自治体職員サッカー選手権大会埼玉県予選

5月24日 ●準決勝 所沢市 5-0 狭山市

本庄市 0-5 さいたま市

5月31日 ●決勝 所沢市 2-8 さいたま市

●3位決定戦 本庄市 2-0 狭山市

※さいたま市、所沢市、本庄市の上位3チームは南関東地区予選会に出場



決勝 さいたま市-所沢市

平成20年度第22回埼玉県大学サッカー選手権 兼 総理大臣杯埼玉県代表決定戦

5月11日 ●決勝 城西大学 3-2 平成国際大学

平成20年度天皇杯埼玉県大学代表決定戦

6月21日 ●決勝 平成国際大学 5-2 城西大学

2種

平成20年度高校サッカー関東大会埼玉県予選

4月27日 ●決勝 西武台高校 2-1 市立浦和高校

※両チームが関東大会に出場

「平成20年度関東大会埼玉県予選総括」

埼玉県高体連技術委員 小茂田佳郁(本庄高校)

平成20年度関東大会県予選は、各支部新人戦の上位24チームと昨年度の選手権ベスト8(中央リーグ)を加えた32チームから関東U-18プリンスリーグに出場している武南、浦和東、正智深谷を除く29チームで、トーナメント戦を行い、決勝戦は市立浦和对西武台という実力高校の対戦となった。

市立浦和は第1シードの本庄第一を2回戦で、西武台は新人戦3位の大宮東と浦和南を連破して勝ち上がってきた。決勝戦は共に3トップの攻撃的なサッカーを志向するチーム同士の対戦で見応えのある一戦となったが、前線にタレント性のある選手を揃えた西武台が逆転から勝利した。その結果、優勝は西武台・準優勝が市立浦和となり、両チームは、5月末から千葉県で行われる関東大会に出場する。また、3位に川越南・浦和南・ベスト8に松山・埼玉栄・浦和・大宮東が入り高校総体県予選のシード権を獲得した。

決勝に進出した西武台と市立浦和はともに攻守の切り替えが早く、前線から厳しくプレッシャーをかけ、ボール保持者にスペース時間を与えず攻撃を自由にさせない。攻撃では、ともにワイドに開いたウィング的な選手と中央にCFをおく3トップの布陣でフィールドを幅広く使おうとしていた。西武台はサイドへ速くボールを送り1対1から突破しながらも、中央にスペースができるとそこを突いてくる。一方市立浦和は、中盤の選手の運動量が豊富で早いタッチのショートパスから攻撃を組み立てようとするが、相手のプレッシャーが厳しくなるとCFがターゲットとなり、そこを起点にしてサイドを突く攻撃であった。

準決勝で敗れたが川越南も前線からの粘り強いディフェンスからリズムを作りながら、準決勝では市立浦和のプレッシャーの中でも中盤を組み立て、後半はゲームを支配していた。新人大会、U-17リーグを経て、各チームとも攻守のバランスが取れ、チームとしての戦いが明確になってきた。

そんな中で、各チームとも前線からの守備が厳しくなり、簡単には、中盤で相手に自由な時間やスペースを与えてくれない。そうしたプレッシャーの中でもボールをつなぐためのコントロールやパスの精度、また早い判断とそれを可能にするポジショニング、オフの準備や予測が求められる。これからの課題であろう。またそんなプレッシャーの中でもボールを引き出し、局面を打開できる選手、あるいはグループなど、今後の選手の成長を期待したい。その中で西武台の前線の選手は、自分の優位な状況になると個人で打開してける選手であった。また、市立浦和のCFとボランチは、労を惜しまずハードワークしながらもチームの軸として存在感を示していた。今後、さらにプレーの精度、質を高め、成長してほしい。

平成20年度学校総体兼全国高校総体サッカー大会埼玉県予選

●決勝リーグ

6月15日～22日 NACK5スタジアム大宮他

	埼玉栄	浦和東	正智深谷	西武台	勝点	得失点差	順位
埼玉栄	*	●1-2	○2-1	○2-1	6	+1	1
浦和東	○2-1	*	●0-1	△1-1	4	±0	2
正智深谷	●1-2	○1-0	*	△0-0	4	±0	3
西武台	●1-2	△1-1	△0-0	*	2	-1	4

※これにより、上位3チームが本大会に出場する。

「平成20年度 学校総体兼全国高校総体サッカー大会 総括」

埼玉県高体連技術委員 武田直樹(栄北高校)

平成20年度学校総体兼全国高校総体サッカー大会が5月10日より6月22日まで行われた。支部予選を勝ち上がった26チームと関東予選ベスト8の8チーム、さらにプリンス出場3チームを合わせた37チームによる4ブロックのトーナメント。さらにそのブロック代表4チームによるリーグ戦が全国大会出場をかけ争われた。結果として優勝は埼玉栄、準優勝に浦和東、3位に正智深谷、4位に西武台に終わった。今年度の全国高校総体が本県開催ということで埼玉栄、浦和東、正智深谷の上位3校が全国大会に出場する。

4校リーグを振り返ってみると、最終日まで全国への出場権がかかった試合展開となり、熱い戦いが繰り広げられた。攻撃面では、個人技を利用したスピードあるドリブルやパスワークが印象的だった。また、高さを生かした力強い攻撃などに得点を感じさせたが、最後の決定力に欠ける場面が見られその差がゲームの流れを変え、勝敗を左右した。また、単純ではあるが、サイドからの攻撃を相手ゴールライン付近までもっとトライしてほしかった。スピード・スキルを持った選手がどのチームにもいたからだ。タテに勝負してほしい場面を切り返してしまったり、安易にクロス上げてみたりする場面があったが、失敗を恐れずにDFと勝負してほしい。そして、DF側にとってはもっと嫌がる攻撃を仕掛けてほしかった。というのは、どのチームにも得点を感じさせるCKが見られたからである。自分のチームの特徴を有効に活用し、展開を考えて攻撃してほしい。守備面では、前線からの守備の意識をもっと上げてほしい。ボールを奪われる、奪われそうになると感じた時に安易に諦めるのではなく、奪い返してほしい。それが無理であるならば、相手にプレッシャーをかける、コースを限定するなどの意識をもっと高めてほしい。また技術・戦術も大事ながら、やはり精神力が勝負には不可欠であることを改めて感じた。特に最終日の埼玉栄対浦和東戦。浦和東は勝てば全国出場、引き分ければ正智深谷対西武台の結果次第という正念場の試合は、雨が降りしきる中、最後まで諦めず幾度となく気迫溢れる攻撃を繰り返した結果、見事勝利。全国への出場を果たした。

最後に、選手には全国まで限られた日数ではあるが、チーム力を上げ、埼玉代表という誇りと自信を持って全国大会に臨んで欲しい。埼玉スタジアム2002の決勝戦では埼玉対決になることを期待したい。



左:浦和東-正智深谷
下:埼玉栄-西武台



3種

第1回埼玉県ユース(U-15)サッカーリーグ

6月21日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	クマガヤSC	2	1	0	7	+5
2	三郷ジュニアユースFC	2	0	0	6	+2
3	HANフットボールクラブ	1	0	0	3	+3
4	FC CORUJA	1	0	0	3	+2
5	フェスタFC	1	0	1	3	-1
6	狭山ジュニアユースFC	0	1	1	1	-1
7	所沢ジュニアユースFC	0	0	2	0	-6
8	埼玉栄中学校	0	0	3	0	-6

第2回埼玉県ユース(U-14)サッカーリーグ

4月27日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	クマガヤSC	2	0	0	6	+11
2	GRANDE FC	2	0	0	6	+3
3	武南ジュニアユースFC	1	1	0	4	+6
4	狭山ジュニアユースFC	1	1	0	4	+1
5	フォルチFC	0	1	1	1	-2
6	フットボールクラブ深谷	0	1	1	1	-6
7	さいたま田島中学校	0	0	2	0	-5
8	本庄南中学校	0	0	2	0	-8

第23回日本クラブユース(U-15)サッカー大会埼玉県予選

5月18日

●決勝 クマガヤSC 3-0 大宮FC

※クマガヤSC、大宮FC、HAN FC、K's FC、カムイJY、フェスタFCの上位6チームと浦和レッズ、大宮アルディージャが関東大会に出場する。

4種

第32回全日本少年サッカー大会埼玉県大会

6月7、14日 埼スタ第2、第3

●準決勝 大宮アルディージャ 2-0 ネオスFC

FC浦和 2-0 江南南

●決勝 FC浦和 1-0 大宮アルディージャ

※優勝したFC浦和は本大会に出場。大宮と江南南、ネオスは関東大会に出場する。



決勝 FC浦和-大宮アルディージャ

女子

県リーグ1部

6月15日現在

順位	チーム名	勝点	試合数	勝	分	負	得失差
1	尚美学園大学	9	3	3	0	0	+27
2	SEフィリアFC	3	1	1	0	0	+6
3	上福岡女子SC	3	1	1	0	0	+4
4	FC.JAM-G	3	2	1	0	1	-7
5	埼玉大学女子	0	1	0	0	1	-6
6	大宮エンジェルス	0	3	0	0	3	-10
7	妻沼毎日FC	0	1	0	0	1	-14

第21回埼玉県民総合体育大会女子サッカー

5月18日～6月1日 幸手市大島新田多目的グラウンド他

●準決勝 坂戸市 4-0 白岡町
幸手市 2-2 東松山市
(6 PK 5)

●3位決定戦 東松山市 17-0 白岡町

●決勝 坂戸市 3-2 幸手市

※坂戸市は初優勝。

平成20年度学校総合体育大会 高校サッカー女子の部

4月26日～5月11日 武蔵丘短期大学総合グラウンド他

●決勝リーグ

	埼玉平成	本庄第一	埼玉栄	久喜	勝点	得失点差	順位
埼玉平成	*	○1-0	○3-0	○3-0	9	+7	1
本庄第一	●0-1	*	○3-1	○2-1	6	+2	2
埼玉栄	●0-3	●1-3	*	○3-2	3	-4	3
久喜	●0-3	●1-2	●2-3	*	0	-5	4

※埼玉平成高校は5年連続10回目の優勝。上位4チームは、6月21日からの関東大会に出場する。



決勝リーグ 埼玉平成-本庄第一

県U-15リーグ

7月12日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点
1	河内ジュベニール	7	0	0	21
2	エンジェルズU15	7	0	0	21
3	FC JAM-G	6	1	2	19
4	エンジェルズU14	6	0	2	18
5	戸南南ポニーズ	5	1	2	16
6	AC館林フェリス	5	0	4	15
7	吉見エスカーラ	4	1	2	13
8	浦和レッズJユース	4	0	0	12
9	川口スピリッツ	3	0	2	9
10	エンジェルズU13	2	2	3	8

順位	チーム名	勝	分	負	勝点
11	WC.JW昭和	2	1	2	7
12	FC熊谷女子	2	1	2	7
13	越谷レディースF	2	1	4	7
14	SEフィリアFC	2	1	2	7
15	白岡SCL	1	1	4	4
16	川越レディースFC	1	0	5	3
17	SOCCER KOZOH	0	1	3	1
18	三郷フェアリーズ	0	1	5	1
19	浦和ラッキーズ	0	0	5	0
20	上里深谷秩父	0	0	7	0

第13回埼玉県女子ユース(U-15)サッカー大会

4月19日～29日 埼玉スタジアム第3他

●準決勝 浦和レッズJr 8-0 FC JAM-G
大宮エンジェルズ05 0-1 エルフエン狭山MARI

●3位決定戦 大宮エンジェルズ05 3-0 FC JAM-G

●決勝 浦和レッズJr 2-1 エルフエン狭山MARI

※上位3チームが関東大会に出場した。

シニア

県60リーグ

●5節終了時

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	FFC	3	1	0	10	+7
2	パルス	2	1	1	7	+1
3	ポラリス	1	0	2	4	-1
4	Gファイター	0	0	3	1	-7

県50リーグ

7月6日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点
1	NTT	7	0	0	21
2	与野	5	2	0	17
3	パルス	5	2	0	17
4	本庄	4	2	1	14
5	東松山	3	2	2	11
6	深谷	3	2	2	11
7	越谷	3	1	3	10
8	大宮	2	2	3	8

南部リーグ

6月1日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点
1	NTT	5	0	1	15
2	新明	5	0	0	15
3	川口	4	1	0	13
4	浦和	4	0	2	12
5	所沢	4	0	1	12
6	東春	3	2	1	11
7	蕨	3	0	3	9
8	与野	2	2	2	8
9	パルス	2	1	2	7
10	川越	2	0	3	6
11	鴻巣	1	1	4	4
12	八潮	1	1	4	4
13	大宮	1	0	5	3
14	越谷	1	0	4	3
15	戸田	0	0	6	0

順位	チーム名	勝	分	負	勝点
9	鴻巣	2	2	3	8
10	川越	1	4	2	7
11	川口	2	1	4	7
12	セントラル	2	1	4	7
13	蕨	1	2	4	5
14	熊谷	1	2	4	5
15	所沢	1	1	5	4
16	戸田	0	2	5	2

北部リーグ

6月8日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点
1	東松山OP	5	0	0	15
2	本庄	4	1	0	13
3	東松山P	3	2	0	11
4	吉見	3	2	0	11
5	児玉	2	3	0	9
6	めめま	2	3	0	9
7	鳩山	2	3	0	9
8	秩父	1	1	3	4
9	行田	1	1	3	4
10	小川	1	0	4	3
11	寄居	0	2	3	2
12	熊谷	0	2	3	2
13	セントラル	0	1	4	1
14	深谷	0	1	4	1

フットサル

埼玉県フットサル1部リーグ

第2節終了時

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	坂戸龍門	2	0	0	6	+7
2	Pure City IMPERIO	2	0	0	6	+2
3	烏天狗	1	0	1	3	+1
4	1FC川越水上公園	1	0	0	3	+1
5	F&F	1	0	0	3	+1
6	ロクFC	1	0	1	3	±0
7	ra'pido	0	0	2	0	-3
8	Mid field	0	0	2	0	-4
9	マカブ〜	0	0	2	0	-5

女子リーグ1stステージ

6月29日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	dolce da donna	5	0	0	15	+30
2	CHU-BAR	5	0	1	15	+18
3	I.F.C/hermes	4	2	0	14	+8
4	城北ランシールズ	3	0	3	9	±0
5	CFP-LASLEONAS	2	0	3	6	+4
6	Orange Cab	1	1	3	4	-17
7	ロクFC・Grama	1	0	2	3	-9
8	Great Vance	1	0	4	3	-21
9	FILHO Ladies	0	1	4	1	-13

大会記録 ● 県外大会

1種・社会人

2008年度関東社会人リーグ・1部

6月29日 後期5節終了時

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	FC町田ゼルビア	10	2	0	32	+37
2	日立栃木ウーヴァSC	7	2	3	23	+7
3	NPO横浜スポーツ&カルチャークラブ	5	5	2	20	±0
4	ホンダルミノツ狭山FC	5	0	7	15	-6
5	クラブドラゴンズ	3	3	6	12	±0
6	海上自衛隊厚木基地マーカー	2	5	5	11	-11
7	さいたまサッカークラブ	2	4	6	10	-5
8	東邦チタニウムサッカー部	2	3	7	9	-22

2007年度関東社会人リーグ・2部

6月29日 後期5節終了時

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	FC KOREA	9	0	3	27	+14
2	飯能ブルーダーFC	8	3	1	27	+6
3	ヴェルフェたかはら那須	8	0	4	24	+13
4	エリースフットボールクラブ東京	6	2	4	20	-1
5	神奈川県教員サッカークラブ	4	2	6	14	-1
6	T.F.S.C.	3	1	8	10	+1
7	S.A.I市原サッカークラブ	3	1	8	10	-7
8	与野蹴球会	2	1	9	7	-25

第2回関東自治体職員サッカー交流選抜大会

3月22日 千葉県市原市スポレクパーク

埼玉県選抜チーム 2-0 群馬県選抜チーム

埼玉県選抜チーム 1-0 栃木県選抜チーム



埼玉県選抜チーム・スタッフ

「第2回関東自治体職員サッカー交流選抜大会に参加して」

埼玉県自治体職員サッカー連盟事務局 さいたま市役所 佐藤正二
平成20年3月22日(土)千葉県市原市スポレクパークにて第2回関東自治体職員サッカー交流選抜大会が開催されました。埼玉県チームは、選手・スタッフ総勢23名で市川市に乗り込みました。昨年同様、チームは野間監督(さいたま市役所)の指導の下、大会まで2回の強化試合を重ね、試合に臨みました。昨年の第1回大会時と比較し、2年連続出場の手もいた関係で顔馴染みの選手も多く、冗談も飛び交い、チーム内は和気あいあい、とてもいい雰囲気でした。

試合は2試合行い、群馬県選抜チームとは2対0、栃木県選抜チームとは1対1で1勝1分という結果でした。大会の趣旨が各都県間の交流を図るという事もありますが、昨年は2戦2敗でしたので結果は満足できるものと考えております。

試合当日は、天候に恵まれ、また素晴らしい天然芝のグラウンドで試合ができて、選手たちは貴重な体験をしたことと思います。来年度以降も今回同様の日程で、市原市スポレクパークにて開催される方向で調整することです。選手・スタッフの皆さん大変お疲れ様でした。この場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

今後の自治体サッカーへの期待と抱負

埼玉県自治体職員サッカー連盟は地方自治体職員がサッカーを通じて相互の親睦と交流を深め、微力ながらも、日本サッカーの普及と発展に

貢献することをその目的としているものです。

毎年夏に開催される、全国自治体職員サッカー大会への出場チーム数の基準となる埼玉県自治体連盟加盟数については、かつては全国一を誇った埼玉県も(自治体合併や選手の高齢化や部員数の減少等)減少の一途をたどっているのが現状であります。かつては、最高で25チーム加盟し全国大会予選会も埼玉県単独で開催することができ、しかも全国大会出場枠も2チーム与えられておりましたが、今年は11チームまで減少してしまいました。全国大会出場も埼玉県予選会で優勝しても、そのまま全国大会に出場できず、さらに神奈川県と千葉県と埼玉県の3県の予選上位チームで南関東大会予選会を開催し、その上位チームがやっと全国大会へ出場できるということで、チーム・選手にとっても、無駄な時間・労力・費用がかかる事が懸念されているところです。事務局としては、今後なんとか埼玉県の自治体連盟の加盟数を増やし、1チームでも多く埼玉県代表として全国大会に送り出し、全国に埼玉県自治体サッカーの実力を誇示したいところです。

2008年度第32回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント

●関東代表決定戦

Bブロック

6月7日 城西大学 5-1 尚美学園大学

6月14日 城西大学 3-5 流通経済大学

※尚美学園大学、城西大学ともに出場できず。

2種

平成20年度高校サッカー関東大会

Aグループ

5月31日 1回戦 西武台 2-0 東京学館

6月1日 準決勝 西武台 3-1 日本航空

(延長)

6月2日 決勝 西武台 3-0 前橋育英

※西武台が初優勝

Bグループ

5月31日 1回戦 市立浦和 0-3 かえつ有明

**埼玉県勢
2年連続
優勝!**



Aグループ決勝 西武台-前橋育英

平成20年度日本クラブユースサッカー選手権(U-18)関東大会 2次予選リーグ

●Bグループ

大宮アルディージャ 1-3 横浜Fマリノス

大宮アルディージャ 1-1 鹿島アントラーズ

大宮アルディージャ 2-0 千葉SC

大宮アルディージャ 0-1 FCトリプレッタ

大宮アルディージャ 6-2 飯能ブルーダー

飯能ブルーダー 1-10 横浜Fマリノス

飯能ブルーダー 0-11 鹿島アントラーズ

飯能ブルーダー 3-4 千葉SC

飯能ブルーダー 3-4 FCトリプレッタ

※大宮ユースはグループ4位、飯能ブルーダーは6位。

●Dグループ

浦和レッズ 10-2 湘南ベルマーレ

浦和レッズ 5-0 川崎フロンターレ

浦和レッズ 3-1 横河武蔵野FC

浦和レッズ 2-0 FC川崎栗の木

浦和レッズ 8-0 FC町田ゼルビア

※浦和ユースはグループ1位で順位決定戦に進出。

順位決定戦

6月21日、22日 那須スポーツパーク

●準決勝 浦和レッズ 2-7 柏レイソル

●3位決定戦 浦和レッズ 0-3 横浜Fマリノス

※浦和レッズは4位で本大会に出場。

平成19年度収支計算書 平成19年4月1日から平成20年3月31日まで 社団法人 埼玉県サッカー協会 (単位:円)

	予 算 額	前年度予算額	増 減
I 事業活動収支の部			
1.事業活動収入			
基本財産運用収入	(500,000)	(502,442)	(△ 2,442)
基本財産利息収入	500,000	502,442	△ 2,442
事業収入	(102,554,800)	(120,373,693)	(△ 17,818,893)
(1) 参加料収入	24,898,000	37,960,374	△ 13,062,374
(2) 事業補助金収入	21,966,800	28,894,516	△ 6,927,716
(3) 運営受託金収入	36,250,000	29,774,077	6,475,923
(4) 売店出店手数料収入	2,500,000	1,743,612	756,388
(5) リコー共益費収入	2,640,000	2,418,700	221,300
(6) 入場料収入	9,500,000	7,288,500	2,211,500
(7) プログラム販売収入	1,800,000	8,322,334	△ 6,522,334
(8) 広告料収入	3,000,000	3,971,580	△ 971,580
補助金収入	(33,798,750)	(40,950,185)	(△ 7,151,435)
(1) 日本協会補助金収入	27,598,750	32,495,525	△ 4,896,775
(2) 県体育協会、埼玉県補助金収入	6,200,000	8,454,660	△ 2,254,660
登録料収入	(168,304,000)	(167,209,100)	(1,094,900)
(1) チーム選手登録料収入	113,042,000	115,641,400	△ 2,599,400
(2) 役員登録料収入	3,000,000	389,000	2,611,000
(3) 審判員登録料収入	52,262,000	51,178,700	1,083,300
寄附金収入	(3,000,000)	(3,150,000)	(△ 150,000)
(1) 協賛金収入	3,000,000	3,150,000	△ 150,000
雑収入	(155,450)	(1,487,697)	(△ 1,332,247)
(1) 受入利息	5,450	238,530	△ 233,080
(2) 雑収入	150,000	1,249,167	△ 1,099,167
事業活動収入計	308,313,000	333,673,117	△ 25,360,117
2.事業活動支出			
事業費	(270,759,299)	(269,155,620)	(1,603,679)
(1) 競技会開催事業費	63,613,800	69,627,651	0
	6,013,851		(注2)
(2) 選手育成登録事業費	96,270,300	100,763,192	0
	4,492,892		(注2)
(3) 指導者審判員養成登録事業費	53,186,000	55,918,350	0
	2,732,350		(注2)
(4) 普及調査研究事業費	29,790,000	29,628,578*	161,422
(5) 代表チーム選定派遣事業費	2,290,000	1,737,990	552,010
(6) 地域間・国際交流事業費	7,500,000	6,609,753	890,247
(7) 広報紙等刊行事業費	4,600,000	4,870,106	0
	270,106		(注2)
管理費	(51,350,000)	(46,356,276)	(4,993,724)
(1) 役員報酬	4,140,000	3,740,000	400,000
(2) 給料手当	25,860,000	19,925,126	3,402,069
	△ 2,532,805		(注1)
(3) 福利厚生費	3,700,000	4,034,277	0
	334,277		(注1)
(4) 会議費	1,000,000	1,849,503	0
	849,503		(注1)
(5) 旅費交通費	1,500,000	1,881,276	0
	381,276		(注1)
(6) 通信運搬費	2,000,000	1,756,329	243,671
(7) 什器備品費	250,000	52,500	197,500
(8) 消耗品費	500,000	410,780	89,220
(9) 印刷製本費	2,000,000	2,142,660	0
	142,660		(注1)
(10) 使用賃借料	8,000,000	7,775,060	224,940
(11) 租税公課費	50,000	135,500	0
	85,500		(注1)
(12) 諸会費	50,000	9,000	41,000
(13) 慶弔費	300,000	153,095	146,905
(14) 交際費	500,000	251,581	248,419
(15) 委託費	1,200,000	1,873,200	0
	673,200		(注1)
(16) 雑費	300,000	366,389	0
	66,389		(注1)
特別事業積立金支出	(40,017,272)	(40,017,272)	(0)
特別事業積立金支出	40,000,000	40,017,272	0
	17,272		(注2)
法人税等	(1,000,000)	(170,000)	(830,000)
法人税等	1,000,000	170,000	830,000
事業活動支出計	363,126,571	355,699,168	7,427,403
事業活動収支差額	△ 54,813,571	△ 22,026,051	△ 32,787,520
II 予備費支出	(2,954)	(0)	(2,954)
予備費	13,529,425	0	13,529,425
	△ 13,526,471	0	
	△ 13,526,471		(注2)
当期収支差額	△ 54,816,525	△ 22,026,051	△ 32,790,474
前期繰越収支差額	54,816,525	54,816,525	0
次期繰越収支差額	0	32,790,474	△ 32,790,474

(注1) 小科目内で流用した金額である。
 (注2) 予備費△13,526,471円は、事業費のうち(1)競技会開催事業費へ6,013,851円、(2)選手育成登録事業費へ4,492,892円、(3)指導者審判員養成登録事業費へ2,732,350円、(7)広報紙等刊行事業費へ270,106円、特別事業積立金支出へ17,272円にそれぞれ流用した。事業費のうち(1)競技会開催事業費、(2)選手育成登録事業費、(3)指導者審判員養成登録事業費、(7)広報紙等刊行事業費特別事業積立金支出の予算額には予備費からの充当を含む。

平成20年度収支予算書 平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

社団法人 埼玉県サッカー協会

(単位：千円)

	予 算 額	前年度予算額	増 減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①基本財産運用収入	(500)	(500)	(0)
基本財産利息収入	500	500	0
②事業収入	(105,716)	(102,555)	(3,161)
(1) 参加料収入	36,445	24,898	11,547
(2) 事業補助金収入	17,781	21,967	△ 4,186
(3) 運営受託金収入	33,990	36,250	△ 2,260
(4) 売店出店手数料収入	1,000	2,500	△ 1,500
(5) リコー共益費収入	4,500	2,640	1,860
(6) 入場料収入	7,000	9,500	△ 2,500
(7) プログラム販売収入	3,000	1,800	1,200
(8) 広告料収入	2,000	3,000	△ 1,000
③補助金収入	(32,673)	(33,799)	(△ 1,126)
(1) 日本協会補助金収入	26,373	27,599	△ 1,226
(2) 県体育協会、埼玉県補助金収入	6,300	6,200	100
④登録料収入	(169,604)	(168,304)	(1,300)
(1) チーム選手登録料収入	114,363	113,042	1,321
(2) 役員登録料収入	3,000	3,000	0
(3) 審判員登録料収入	52,241	52,262	△ 21
⑤寄附金収入	(3,000)	(3,000)	(0)
(1) 協賛金収入	3,000	3,000	0
⑥記念事業積立金取崩収入	(5,000)	0	(5,000)
(1) 記念事業積立金取崩収入	5,000	0	5,000
⑦雑収入	(56)	(155)	(△ 99)
(1) 受入利息	6	5	1
(2) 雑収入	50	150	△ 100
事業活動収入計	316,549	308,313	8,236
2. 事業活動支出			
①事業費支出	(256,049)	(255,750)	(299)
(1) 競技会開催事業費	(50,275)	(62,114)	(△ 11,839)
(2) 選手育成登録事業費	(102,034)	(96,270)	(5,764)
(3) 指導者審判員養成登録事業費	(60,523)	(53,186)	(7,337)
(4) 普及調査研究事業費	(29,418)	(29,790)	(△ 372)
(5) 代表チーム選定派遣事業費	(1,580)	(2,290)	(△ 710)
(6) 地域間・国際交流事業費	(7,000)	(7,500)	(△ 500)
(7) 広報紙等刊行事業費	(5,220)	(4,600)	(620)
②管理費支出	(51,350)	(51,350)	(0)
役員報酬	4,140	4,140	0
給料手当	25,860	25,860	0
福利厚生費	3,700	3,700	0
会議費	1,000	1,000	0
旅費交通費	1,500	1,500	0
通信運搬費	2,000	2,000	0
什器備品費	250	250	0
消耗品費	500	500	0
印刷製本費	2,000	2,000	0
使用賃借料	8,000	8,000	0
租税公課費	50	50	0
諸会費	50	50	0
慶弔費	300	300	0
交際費	500	500	0
委託費	1,200	1,200	0
雑費	300	300	0
③特別事業遂行費	(8,000)	(0)	(8,000)
埼玉サッカー100年記念事業	8,000	0	8,000
事業活動支出計	315,399	307,100*	8,299
事業活動収支差額	1,149	1,213*	△ 64
II 法人税等			
III 予備費支出	150	213	△63
当期収支差額	0	0	0
前期繰越収支差額	0	0	0
次期繰越収支差額	0	0	0

(注) 1. 年度内予算額は新公益法人会計基準に組み替えて表示しています。

各委員会委員長

専門委員会

財務委員会	宮田 典男
技術委員会	小林 武
審判委員会	岡田 泉
広報委員会	高橋 明
施設委員会	二瓶 省三
医事委員会	鶴岡 明
科学委員会	戸苅 晴彦
規律・フェアプレー委員会	柴崎 康之(新任)

特命委員会

総務企画特命委員会	星野 隆之(新任)
強化対策特命委員会	野崎 正治
国際事業特命委員会	林 昭雄
Jリーグ特命委員会	渡邊 誠吾(新任)
ボランティア特命委員会	都倉 正敬
SFAミッション特命委員会	横山 謙三
キャプテンズミッション 遂行特命委員会	星野 隆之

種別委員会

第1種委員会	松沢喜久夫(新任)
第2種委員会	松村 道彦(新任)
第3種委員会	柏 悦郎
第4種委員会	秋山 和雄
女子委員会	長瀬 欣一
シニア委員会	遠山 茂
フットサル委員会	高橋 昭夫(新任)

インフォメーション

平成20年度 彩の国カップ 第13回埼玉県サッカー選手権大会開催

さいたまSC	7/21 11:00 熊谷東多目的	0	優勝(天皇杯出場)
FC 3DEP	7/13 11:00 増スタ第3	2	
アヴェントゥーラ川口	8/24 11:00 熊谷SUB		
飯能ブルーダーFC	7/21 13:00 熊谷東多目的		
尚美学園大学	8/31 14:00 増スタ第2		
ホンダルミノソク狭山	7/20 11:00 増スタ第4		
与野蹴魂会	8/24 13:00 熊谷SUB	4	
平成国際大学	7/13 13:00 増スタ第3	3	
埼玉栄高校	7/20 13:00 増スタ第4		
大宮アルディージャユース			

DF 安藤 梢 浦和レッズレディース
DF 矢野 喬子 浦和レッズレディース
バックアップメンバー
GK 山郷のぞみ 浦和レッズレディース

第63回国民体育大会関東ブロック大会組合せ

●成年男子 (抜粋)

埼玉	8/16 12:00 蕨崎中央公園陸上競技場	代表
茨城	8/17 10:00 蕨崎中央公園芝生広場	
神奈川	8/16 12:00 蕨崎中央公園芝生広場	
栃木		

●女子 (抜粋)

埼玉	8/16 10:00 押原公園天然芝グラウンド	代表
山梨	8/17 10:00 押原公園天然芝グラウンド	
栃木	8/16 12:00 押原公園天然芝グラウンド	
神奈川		

2008 PUMA CUP

第12回埼玉国際ユースサッカー大会開催

7月21日 駒場スタジアム 11時～
正智深谷高校 対 パチューカU-17
7月22日 埼玉スタジアム第2 11時～
埼玉県選抜U-16 対 パチューカU-17
7月23日 埼玉スタジアム第3 11時～
浦和レッズユース 対 パチューカU-17
※パチューカは、1901年に創立したメキシコ最古のクラブ。07年のFIFAクラブワールドカップにも出場している。

埼玉国際ジュニアサッカー大会2008開催

7月25日……予選トーナメント
7月26、27日……順位決定トーナメント
会場：埼玉スタジアム2002、同第2、同第3、同第4、レッズランド、さいたま市八王子スポーツ施設、三郷スカイパーク多目的広場
県内出場チーム：埼玉県選抜、県東部選抜、県西部選抜、県南部選抜、県北部選抜、川口市選抜
※詳細は、埼玉県ホームページトップページ→県民生活部→青少年課→埼玉国際ジュニアサッカー大会→埼玉国際ジュニアサッカー大会2008 まで

北京オリンピックに向けて、男女代表が決定！

北京五輪に挑む日本代表が発表された。埼玉関係は以下の通り。
男子

MF 細貝 萌 浦和レッズ

女子

DF 池田 浩美 TASAKIペルーレFC
(旧姓・磯崎。本庄一高出身)

DF 柳田 美幸 浦和レッズレディース

高校総体開催！

7月28日から県内各地で平成20年度全国高等学校総合体育大会が開催される。今回は「彩夏到来～限界を超え飛び立つ君よ永遠の風になれ～」として、埼玉が舞台となった。

サッカー競技はさいたま市を中心に開催され、29日に1回戦が始まり、8月4日に埼玉スタジアム2002において、決勝戦が行われる。

県内からは埼玉栄、浦和東、正智深谷の3校が出場する。暑い盛りだが、全力を尽くして優勝を目指してほしい。



ポスター作成
浦和学院高校 荒木朋子さん

7月29日 1回戦 浦和東高 対 各務原高
(NACK5スタジアム大宮 11:45～)
正智深谷高 対 久御山高
(駒場運動公園競技場 11:45～)

7月30日 2回戦 埼玉栄高 対 未定
(駒場運動公園競技場 10:00～)

企画展「埼玉サッカー100年」

・埼玉県立歴史と民俗の博物館

・7月19日～8月31日

観覧料：一般400円 高校生・大学生200円

小・中学生、65歳以上、障害者手帳等をお持ちの方はいずれも無料

記念講演会

横山謙三氏 (財)埼玉県サッカー協会副会長兼専務理事)

「Wonderful SAITAMA～サッカーで幸せな埼玉県～」

申込方法：6月27日から電話受付 先着150名

編集後記

●明治41年埼玉師範学校に着任した細木史朗氏が蹴球部を創設し、生徒にサッカーを指導したのが「埼玉サッカーの起源」とされ、今年がその発祥から100年に当たる。先人達のサッカーへの熱き思いが今埼玉に一つの文化として根付いた。未来に向けて埼玉の財産であるサッカーを末永く未来に伝えていきたいものだ。関係団体の様々なイベントにも足を運んでほしい。(高橋)

●もうすぐ暑い夏が訪れますが、県内ではインターハイを含む多くの大会が行われますが、選手だけでなく、サッカーに関わる皆さんが健康に夏を過ごせる事を願っております。(坂庭)

●子どもの頃、近くに蓮華畑が広がり、窓から富士山が見えていた私の家。今では駆がで、マンションが建ち並び便利になったけれど…少し淋しい感じがします。(こいち)

●あっという間に1年も半分が終わりました。EUROあり、W杯予選あり、北京五輪ありと大きな大会目白押しの本年。まだまだ熱い闘いが続きます！皆さんも元気に暑いサッカーライフを☆(ほうしと)

●最近(でもないですが)お菓子の「グミ」にハマっています。新製品を見るとつい手を伸ばしてしまいます。甘い物が好きでよく食べるのですが、グミのカロリーも結構高いので気をつけないと…。(かのう)

●W杯アジア3次予選も日本の勝利で無事終了し、一安心。タイ戦は雪、今回のパレーン戦は大雨でしたが、約51,000人の方々に足を運んでいただき、ただ、ただ感謝です…。All For 2010!! (小豆澤)

●岡野俊一郎氏は関東選抜の選考委員に言った。「どうか、あの転向したばかりのゴールキーパーを補欠でもいいから入れておいて下さい」(「大和魂のモダンサッカー」(双葉社)より引用)。やがて横山謙三は日本サッカー史上最高のGKと言われる男になった。指導者の選手を見抜く目は…(栗島)